



どんぐり



パークセンターだより 第84号 2007年4月・5月号

団子の木？ 繭玉の木？

自然解説員
加藤 裕一

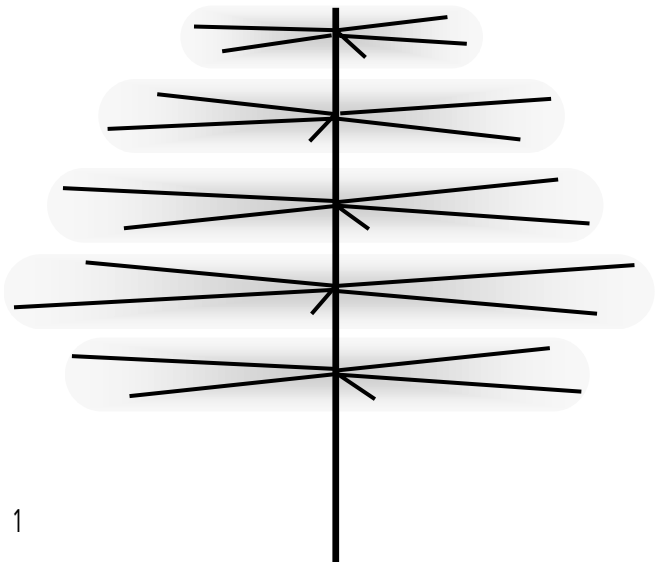
<呼び名いろいろ>

この木には、“ダンゴノキ”とか“マユダマノキ”という別名があります。木の枝に、餅もちや団子、あるいは鯛たいや宝船などの縁起物えんぎものの模型もけいを吊つりした正月の飾り物のことを繭玉まゆだま飾りと言いますが、その繭玉飾りを作る際によく使用されたのがこの木でした。そんなところから、“団子の木”や“繭玉の木”と呼ばれるようになったのでしょうか。さて、この木の正体は？

その木は、「ミズキ」です。ミズキは日本全国に分布している落葉樹で、21世紀の森と広場でもあちらこちらで見かけます。繭玉飾り以外にも、例えば東北地方ではこけしの材料として有名で、その他にも、こま、箸はし、寄木細工よせぎざいく、など、色々な用途に用いられてきました。冒頭ぼうとうのダンゴノキ、マユダマノキ以外にも、例えばアカキ、アカシバ、アカミズ、カギッコノキ、カギノキ、トリアシ、ミズクサなど、ミズキを指す様々な呼び名が各地にあるといえます。これは、人里近くにも沢山生えていて、人々の生活や文化とかかわりの深い木であったことを反映しているのではないのでしょうか。皆さんの地元では、ミズキのことを何と呼んでいたのでしょうか？

<ユニークな樹形>

ミズキの樹形を大雑把おおざっぱに描いてみました(右図)。中心の幹ほうしやじょうから放射状に枝を出し、その枝は横へ広がっていき、テーブル状の面を形成します。そしてその面は1mほど間隔かんかくをあけて何層なんそうも積み重なっています。このような特徴ねんとうを念頭に置いてこの公園内を



歩けば、こんなに沢山生えていたのかと思うほどあちこちでミズキの木と出会えると思います。このようなユニークな樹形を持つ木は多くはありません。

＜葉脈の目立つ葉＞

ミズキの冬芽は、はっとするほど美しい紅色をしているのですが、春になると突然その先端から若葉が顔を出し始めます。小指の先くらいの大きさの冬芽の中に押し込められていた何枚もの葉には白い毛が密生みっせいしていて、まるで絹きぬのようです。葉は徐々に広がりながら黄緑色に変化し、その若々しい緑色は、若葉を包み込んでいた冬芽の紅色のおかげで一層引き立って見えます。

展開し終えたミズキの葉は丸々としていて大きく、表面にはややつやがあり、裏面はかなり白っぽく見えます。葉には大抵、中心となる葉脈（主脈）と、そこから左右に伸びる葉脈（側脈）とがありますが、ミズキの場合、主脈に加え、側脈も非常に明瞭めいりょうです。さらに側脈を詳しく見てみると、葉の縁に近づくと葉先の方向に向きを変え伸びていく様子が印象的です。



＜花のテーブル＞

新緑が一段落し、木々の緑が一層濃くなり始める頃、ミズキは花の季節を迎えます。一つ一つの花は大きくないものの、それが100個も200個も集合して咲くのでなかなか見応えがあります。その花が、テーブル状に広がる枝の先々に咲きそろうので、まるで花を敷き詰めたテーブルを何段も積み重ねたような姿になり、壮観そうかんです。

花びらは4枚で十字に開き、それと互い違いたがちがに雄しべが長く突き出ています。満開を過ぎるとどんどん散り始め、木の下には多量の落花が降り積もります。

（参考文献：『日本植物方言集成』（八坂書房）2001）

これからの シンビジユウムの手入れ

みどりの相談員
小林喜代次

シンビジユウムは・・・

洋ランのひとつで、^{ひばい}肥培管理の楽な植物です。春に新芽が出て生長し、秋に肥大充実したバルブ（根茎）の基部から花茎が伸びて、冬から春に開花します。



春の新芽かきは忘れずに

新芽が3～4 cm になったら、一般的に6号鉢で新芽を3本程度にし、それ以外は芽かきをします。（放任して新芽が多くなると株が疲れて花芽ができません）

戸外に出す（春から秋まで）

5月連休ごろより戸外で育てます、以降秋まで毎日5～6時間は日を当てます。

置き場所

風通しのよい場所で（生育温度20～25°）鉢と鉢の間隔をとります。（棚かブロックの上に）

水やり

鉢土の表面が乾いたら、鉢底から水が出るほどタップリと与えます。夏は一般的に1日1回、高温乾燥時には朝夕、時には葉水を与えます。

肥料

新芽が3～5 cm くらいに伸び始めたら月2～3回、液肥を9月下旬ごろまで施し、さらに固形肥料を5～7月に施します。（6号鉢で月5～6個）

真夏（7～8月）は40～50%の遮光

葉焼け防止のため木の下や^{かんれいしゃ}寒冷紗^{しゃこう}で遮光します。特に西日は避けます。夏の生育中に日照量が不足すると、株の生育が低下して花芽の形成が悪くなりますので、光量と葉焼け防止の調整が大事です。

シンビジウムの良い花芽をつけるには

新芽を早く大きく育て、葉数を8枚以上確保し、充実したバルブを育成することが大切です。したがって生長期（6～9月ころ）には水と肥料を充分に与え、日光によく当ててやります。

秋の葉芽かき

秋に肥大したバルブの基から花芽（ふっくらした芽）と葉芽（細い芽）がでます。

その時に葉芽はかきとり、花芽だけを伸ばして開花させます。



4月・5月の催し物



講座	日時	対象・人数	講師	費用	受付
園芸教室 「芝の作り方と管理 （実習有）」	平成19年4月11日（水） 13:30～15:00	どなたでも 30名	みどりの相談員 野口宣二氏	無料	3/15～
自然観察会 「森の芽吹きと 花の観察会」	平成19年4月15日（日） 10:00～12:00	どなたでも 25名	森林インストラク ター 國安 哲郎氏	無料	3/15～
園芸教室 「クンシラン等の株分け と増やし方（実習有）」	平成19年4月15日（日） 13:30～15:00	どなたでも 20名	みどりの相談員 青島尚祐氏	500円	3/15～
昆虫ウォッチング （雨天中止）	平成19年4月21日（土） 10:00～11:30	どなたでも 当日先着 25名	自然解説員 田中宏卓氏	無料	当日
みどりの教室 「植物画の やさしい描き方」	平成19年4月21日（土） 10:00～16:00	どなたでも 20名	ポタニカルアーテ ィスト 佐々木啓子氏	200円	4/1～
野草ウォッチング （雨天中止）	平成19年4月22日（日） 10:00～11:30	どなたでも 当日先着 25名	自然解説員 川端祥子氏	無料	当日
バードウォッチング （雨天中止）	平成19年5月13日（日） 10:00～11:30	どなたでも 当日先着 25名	自然解説員 今村裕之氏	無料	当日
野草ウォッチング （雨天中止）	平成19年5月19日（土） 10:00～11:30	どなたでも 当日先着 25名	自然解説員 加藤裕一氏	無料	当日
昆虫ウォッチング （雨天中止）	平成19年5月20日（日） 10:00～11:30	どなたでも 当日先着 25名	自然解説員 田中宏卓氏	無料	当日
園芸教室 「バラを使った初夏の寄 せ植え」	平成19年5月20日（日） 13:30～15:00	どなたでも 24名	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	2,000円	5/1～
園芸教室 「家庭菜園 ～夏の手入れ～」	平成19年5月26日（土） 13:30～15:30	どなたでも 45名	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	5/1～
自然観察会 「初夏の昆虫観察会」	平成19年5月27日（日） 13:30～15:00	どなたでも 25名	プロフェッショナル 佐々木 洋氏	無料	5/1～

注）予定に変更が生じる場合がございますので、
詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。

雨の日のカエル探し ～ 梅雨の時期の楽しみ方～

自然解説員
黒江美紗子

6月は雨の多い時期です。毎日毎日雨が続きます。この時期に長く続く雨を“梅雨（つゆ）”と呼びますが、もともと湿気しっけの多い日本ではよけいに湿しめっぽくなります。外に出られるわけでもありませんし、食べ物や椅子いすもなんだか湿しめっていて、つい気分も湿しめっぽくなってしまいかもしれません。

しかしそういった湿しめっぽい日が大好きな生き物もいます。カタツムリなどは雨が降るとどこからか出てきます。雨が止んだときに、壁や葉っぱに妙みょうにキラキラしたすじが見えるのはカタツムリの通ったあとです。他に雨が好きな生き物の代表として“カエル”があげられます。

カエルは、両生類りょうせいりです。両生類というのは、陸と水辺の両方を必要とする生き物で、身体が湿しめっていないと呼吸こきゅうできません。身体全体を湿しめらせておくことで、水に溶けている空気ひふを皮膚から取り入れて呼吸こきゅうしています。卵を産むときも水の中に産みますし、幼生ようせいであるオタマジャクシも足が生えるまでは水の中で過ごします。つまりカエルは水辺からなかなか離れることができません。

雨が降ると世の中全体が水辺になります。そうすると水が必要なカタツムリやカエルが動き回れるようになるわけです。

身近なところに住んでいるカエルには、ヒキガエルとアマガエルがいます。茶色でどっしりとした大きなカエルがヒキガエル、つるつとした小ぶりの緑色のカエルがアマガエルです。

春先になると池などで透明なヒモ状の卵を見たことがあると思います。そのうち黒いオタマジャクシが泳ぐようになって手足が生えてきたなと思うといつのまにかいなくなっている、それがヒキガエルです。ちょっとした池が近くにあれば公園や校庭にもいます。大人になったカエルは泳いでいたオタマジャ



写真1：イネの根元に座っていたヒキガエル。
おなかが重そう。

クシからは想像もつかないほど大きくてゴツゴツとしたカエルです。目の後ろにちょっとしたふくらみがありそこにはプフォトキシムという毒が入っています。天敵であるヘビに対してのアピールとしては使いますが、そつと掴んだり触ったりする分には大丈夫です。出会ったときは、おなかや背中 of イボイボなどぜひ触らせてもらってください。



写真2：オギの葉の上でつけたアマガエル。
鳴くときはのどの下が膨らむ。

一方でアマガエルは、名前の通り雨を知らせるカエルです。カエルは皮膚が薄い分、気温や湿度・気圧の変化に敏感です。雨が降るといふこと事態が分かるのではなく、「なんだか天気が(雨が降る

方向に)変わったぞ？」ということを感じて鳴くのだそうです。全身緑色をしたカエルには他にアオガエルがいますが、アマガエルは目の後ろに黒い線が入っているので区別できます。つるつるした緑色のものがペタッと葉っぱにくっついているのを見つけるとなんだか草餅を思い出してしまいます。どっしりとしているヒキガエルに比べ、アマガエルは動きも速いしジャンプ力もあります。捕まえるときはアマガエルがどちらを向いているか？どちらに飛び出しそうか？を予想して、手をひょいっと伸ばすのがコツです。手の中に入れてくれたら力を込めずにそつと持ってあげてください。ちなみにアマガエルのチャームポイントは指先にある吸盤です。高いところにある葉っぱの上を移動するアマガエルは、指先に吸盤をもつことで飛んでも落ちずに着地できるのです。丸いポツンとした吸盤は、指ごとに大きさも違います。どの指の吸盤が一番大きいのか、見てみてください。

湿っていることや水辺が近くにあること以外に、こうしたカエルを見つけるポイントは土と植物です。ヒキガエルもアマガエルも土や植物がないと生きていけません。雨が降りそうなときに外に出かければ、アマガエルの声が聞こえるかもしれません。雨が降っているあいだは、カエルたちは活発に動き回っています。雨が降り止んだあとに水溜りをめぐってみると、そのどれかにヒキガエルがぼんやりしているかもしれません。これまでは少しゆううつだった雨の時期ですが、

そんなときは傘をさしてカエル探しに出かけてみてください。

最後に、カエルの仲間は爪^{つめ}や牙^{きば}といった武器を持たない分、皮膚の表面に特殊^{とくしゅ}な物質を持っているものが多いです。食べたりなめたりしない限り害はありません。どんな生き物が相手でもそうですが、触ったあとは必ず手を洗うように…。



「こめっこクラブ」会員募集！！



〔申し込みは〕

往復ハガキに住所、氏名（フリガナ）、電話番号、学校名、学年を記入しパークセンターまで送付して下さい。

住所は8ページに記載してあります。

4月13日（金）締切（必着）

公園にある田んぼでお米づくりの体験をしてみませんか？

年6回の活動日に、保護者と一緒に全回参加できる、市内在住の小学4年生～6年生25名を募集します。

〔活動日〕

5月12日（土）田植え

6月16日（土）除草・害虫駆除

7月28日（土）稲の観察・かかし作り

9月15日（土）稲刈り

10月6日（土）脱穀

11月10日（土）おもちつき

〔時間〕

午前10時～12時

（おもちつきは午後2時まで）

〔費用〕

実費（100円程度）

申込多数の場合は抽選になります。





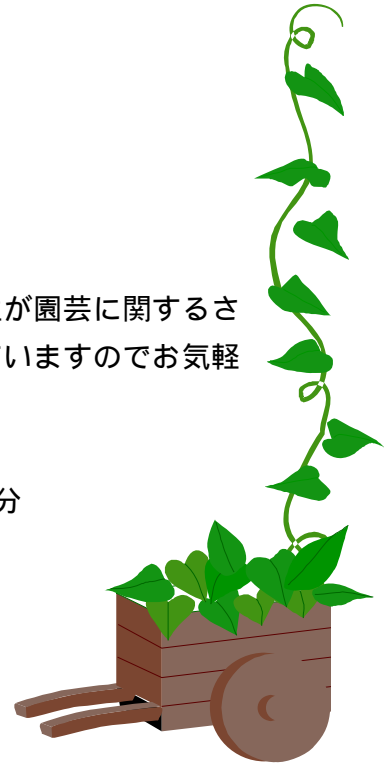
みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738 ハナミツバチ



ご来園の皆様へお願い

安全、快適に公園を利用していただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。**自転車**（キックボード含む）の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可）などは禁止となっています。また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったら無くなってしまいますし、かわいいからと、人間の食べ物を鳥などにあげるとお腹なかをこわしたりして、かえってかわいそうなことになってしまいます。ルールを守って楽しく遊んで下さいね。

発行日：2007年4月1日
発行：21世紀の森と広場パークセンター
開館：9：00～16：30
月曜休館（祝日開館／翌日休館）
〒270-2252 松戸市千駄堀269
TEL 047-345-8900
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

